

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	危機管理防災課
施策	8	安全・安心な暮らしの確保	評価 責任者	廣田 喜之 内線 3510
小施策	8-2	地域防災力の強化	評価 シート 作成者	吉田 清光 内線 3511

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
・自然災害による被害・影響を軽減するため、「自助」、「共助」、「公助」による防災・減災への取組を強化する必要がある。 ・自然災害をはじめとする住民の安全・安心を脅かす事案が続いていることを踏まえ、あらゆる危機に対応できる危機管理体制の充実を図る必要がある。 ・市における自主防災組織の組織率は、17年度末の18.0%から28年度末には85.3%と上がってきているが、すべての町内会、自治会等において自主防災組織が結成されるよう、更に促進するとともに、災害時に効果的な活動ができるよう、結成後の継続した訓練などの実施が必要である。		市民の防災意識を高めるために情報の提供を充実させるなど、地域における防災体制を強化する。また、自然災害をはじめ、あらゆる危機に対応できる危機管理体制の充実を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民・事業所		災害による被害が最小限にとどまる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価		今後の方向性(令和元年度以降)
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析	
指標① まちづくり評価アンケート調査「避難場所を知っている」と答えた市民の割合	%	↗	当初値 (H25) 69.0 R1目標値 75.0 R6目標値 80.0	⇒	<p>・地域の避難場所等の周知が図られてきている。</p> <p>・町内会等を対象とした防災講座の実施や、自主防災組織等を中心とする地域での防災・減災への取組が普及してきた。 ・「防災マップ」について、従来の「地図画」に加え、平時の準備から災害時の避難行動までを段階的に学習できる「情報学習画」の充実を図ったものに全面更新し、市内全戸に配布した。 ・「防災マップ」を活用し、災害時における避難行動や平時からの備え等について、各地域で住民説明会を実施した。</p>	<p>★ 避難場所等を知る機会を設けるため、市民参加型の総合防災訓練やシェイクアウト、土砂災害訓練の継続と充実を図る。 ★ 自主防災組織の活動を強化することにより、地域における避難場所等の周知を促進する。 ★ 避難場所等を知る機会を設けるため、防災講座や説明会の充実を図る。 ★ 避難場所等掲示板の設置を促進し、周知を図る。</p>
			⇒	<p>問題点</p> <p>・約5分の1の市民が、避難すべき場所を知らない。</p> <p>・災害が発生しても大丈夫だと思っている。 ・避難が必要な事態を経験したことがない。 ・避難場所を知る機会がなかったり、知る方法が分からない。</p>		
			⇒			
指標② まちづくり評価アンケート「防災対策をしている」と答えた市民の割合	%	↘	当初値 (H25) 60.7 R1目標値 70.0 R6目標値 80.0	⇒	<p>・およそ4割の市民が、防災対策をしている。</p> <p>・「防災マップ」を活用し、災害時における避難行動や平時からの備え等について、各地域で住民説明会を実施した。</p>	<p>★ 防災意識を高めるため、市民参加型の総合防災訓練やシェイクアウト、土砂災害訓練の継続と充実を図る。 ★ 地域住民に対する防災対策の啓発を図るため、自主防災組織の活動を強化する。 ★ 防災対策の必要性に対する理解浸透を図るため、防災講座や説明会の充実を図る。 ★ 避難場所等掲示板の設置を促進し、周知を図る。</p>
			⇒	<p>問題点</p> <p>・防災対策をしている市民の割合が、減少傾向にある。</p> <p>・具体的な防災対策が十分に浸透していないと考えられる。 ・東日本大震災後間もない時期の緊張感が徐々に薄れ、風化してきている。 ・防災の啓発活動は、主に町内会や公民館事業の参加者にとどまっている。</p>		
			⇒			
指標③ まちづくり評価アンケート調査「防災訓練に参加する」と答えた市民の割合	%	↔	当初値 (H25) 42.1 R1目標値 51.0 R6目標値 60.0	⇒	<p>・総合防災訓練には、開催地域の住民のほか小中学校関係者が参加した。 ・シェイクアウトには、学校や町内会、企業などが参加した。 ・土砂災害危険箇所を有する地区のうち、2箇所で開催訓練を実施した。</p> <p>・総合防災訓練や土砂災害訓練では、対象地域に限られるため、個別に呼びかけができた。 ・シェイクアウトは、学校や企業の組織単位で行うことや、事前の準備が不要の上、短時間で実施できるため、取り組みやすかった。</p>	<p>★ 訓練参加の機会を設けるため、市民参加型の総合防災訓練やシェイクアウト、土砂災害訓練の継続と充実を図る。 ★ 防災訓練の重要性の理解浸透を図るため、自主防災組織の活動を強化する。</p>
			⇒	<p>問題点</p> <p>・防災訓練に参加すると答えた市民の割合が、横ばいに推移している。</p> <p>・東日本大震災後間もない時期の緊張感が徐々に薄れ、風化してきている。 ・自主防災組織(町内会等)の防災活動への参加率が低い。 ・知識が先行し、防災に対する意欲の低下が考えられる。</p>		
			⇒			

実績値の推移				実績の評価																									
指標④ 町内会・コミュニティの自主防災組織率		単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析																								
当初値 (H25)	78.5	%	↗																										
R1目標値	90.0																												
R6目標値	100.0																												
<table border="1"> <caption>実績値の推移 (線グラフ)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値 (H25)</td> <td>78.5</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>82.8</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>85.3</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>88.5</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>89.8</td> </tr> <tr> <td>R1目標値</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6目標値</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>				年度	実績値 (%)	当初値 (H25)	78.5	H27	82.8	H28	85.3	H29	88.5	H30	89.8	R1目標値	90.0	R2		R3		R4		R5		R6目標値	100.0	・自主防災組織を結成する町内会等が増加した。	・消防対策室に自主防災推進員2名を配置し、地域の自主防災組織の結成・育成に取り組んでいる。
年度	実績値 (%)																												
当初値 (H25)	78.5																												
H27	82.8																												
H28	85.3																												
H29	88.5																												
H30	89.8																												
R1目標値	90.0																												
R2																													
R3																													
R4																													
R5																													
R6目標値	100.0																												
				問 題 点	問題の要因分析																								
				・自主防災組織が結成されていない町内会等が依然として残っている。	・「共助」に対する理解不足が考えられる。 ・地域の防災リーダーの担い手不足と高齢化も要因のひとつと考えられる。																								

評価を踏まえた取組の方向性

★…R1年度着手済または着手予定
 ☆…R2年度以降の着手を検討

★ 自主防災組織の結成を促進するため、未結成の町内会・自治会等に直接働きかけを行うとともに、結成済組織の育成を図るため、研修等を実施する。